

no.25

# CLCからしだね書店便り



1

2023  
January

CLCからしだね書店では…

- 1 キリスト教書だけでなく、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- 2 お洒落 でかわいい雑貨や小物もあります。
- 3 ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- 4 コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。
- 5 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、好きな本を手にとってお読みください。
- 6 古書のコーナーもあります。ほりだしものもあります。
- 7 読書会や著者を招いての講演会など、人と人が出会い、つながる「対話」の場を提供します。





## おとなのための 神の物語

### 子どもだったみなさんへ

- 1 「非常によかった」(創世記1:31)にある神さまの喜び、神さまのご満足を子どもたちに伝えたいと思います。子どもたちはなにかをしたからではなく、なにもできなくても、神さまの喜びなのですから。
- 2 人は神のかたち。わくわくしながら、神さまとの、他の人との、そして被造世界との関係を育てることを楽しむことができるのです。このわくわくが、世界でいちばん楽しいことだと、子どもたちに知ってもらいたいですね。
- 3 そのためには、知っておくべきことがひとつ。世界は安全な場所であることです。コロナ、戦争、いじめなど、さまざまなお知らせがあります。でも、この世界は神さまがつくったよい世界であり、神さまが支えているよい世界なのです。安心して、冒険してもいいのです。人たちががついていても、だいじょうぶなのです。
- 4 聖書が教えるのは神さまの心。地球のつくり方のレシピではありません。子どもたちが学校で教わる進化論で悩む必要はありません。神さまの心を教えてあげてください。

和紙ちぎり絵：森住 ゆき もりずみ ゆき  
群馬県生まれ。和紙ちぎり絵作家。著書に画文集「アメイジング・グレイス」「ぶどうの気持ち」「日めくり片隅の花でも」(いのちのことは社)、「思いを伝える和紙のちぎり絵春夏秋冬」(日貿出版社)がある。埼玉県在住。

# 子どものための神の物語

かたひと おおず しんいち  
語る人：大頭 眞一

## 第1回 世界のはじまり

あおいそらに  
吸い込まれそうになったことがあるっ  
ほしぞらに  
なみだがでそうになったことは？  
ふるえるこねこを  
思おもわずだきしめたことは？  
そらもほしもこねこも  
みんな神かみさまがつくった  
わくわくしながら  
そしてぼくたちのこころも  
神かみさまがつくった  
とてもわくわくしながら  
きみは神かみさまのわくわく



大頭 眞一 おおずしんいち  
1960年神戸市生まれ。英国マンチェスターのナザレン・セオロジカル・カレッジ(BA、MA)と関西聖書神学校で学ぶ。日本イエス・キリスト教団香登教会伝道師・副牧師を経て、現在、京都府の京都信愛教会と明野キリスト教会の牧師、関西聖書神学校講師、焚き火塾代表。ドリームパーティー発起人。



2023年の新企画、どうぞよろしくおねがいします



昨年末に予告していた  
ビックリ企画が

はじまりました  
2022年1月号から  
びっくり企画!!!!

かたる人：大頭眞一さん  
絵：森住ゆきさん

子どものための神のものがたり

「2023年は、書店よりも新たな気持ちで...」  
と思っていたちょうどその  
ころ、書店のお客様でもある  
大頭眞一牧師から「からだね  
書店だよりに連載してもいいですよ。  
かも森住ゆきさんのちぎり絵つきで」という驚きの提  
案があり、私の第一声は「むり！むり！むり！むり！」でした。  
書店よりは、書き手イラストレイアウトも印刷もほとんど  
前前で、ある意味、好きなように書いて、多少のミスや誤字にもぐっと目をつぶって、ひやひやしながら発行してい  
ます。「でもまあ、勝手に作って、勝手に配ってだけやし」と、  
とりあえず毎月発行できることを喜びにできあがるものなの  
です。そんな書店だよりに、大頭牧師と森住さんを巻き込んでし  
まってよいのか...？いや、あかんやろ...？

「大頭牧師は文章担当なのでまだよいですが、森住ゆきさんのち  
ぎり絵を再現するなんてとても無理です。ちぎり絵独特の風合い  
や色が台無しになってしまいます！しかもお金がないので、原稿  
料も払えません！」と、一度はお断りしました。ところが、大  
頭牧師も森住さんも、「原稿料？そんなものいりません。ただが  
良いです。ただで、思いっきりおもしろいことをやりたい！」と、  
おっしゃいました。森住さんにいたっては、おそらく普通の作家  
さんだったら許し難いはずの、ペラペラのコピー用紙の上に大事  
な作品を載せるといった大胆なチャレンジをもとめせず...。大頭  
牧師と森住さんの人間のてっかさとか、(ちょっと天然入っ  
ているかもと思わせる)突き抜けたおらかさとかいうか、私もか  
くあらねばと、反省までさせられてしまいました。  
というわけで、2023年1月号から1年間の新しい企  
画が始まります。  
文章も絵も、とても人間味のあるあたたかで迫力のお  
る、そして励まされるものになっています。  
子どもたちに、そしてかつて子どもだった大人たちに、  
伝えたいメッセージがいっぱいです。  
どうぞ、お楽しみに。(店長)

がんばれ、からだね書店！  
大頭眞一です。  
ぼくはかねてからからだね  
書店って、すばらしいと思っ  
ています。キリスト教書店の  
明るい希望を感じるのです。  
ぼくにできる応援はないか  
なあと考えていたところ、こ  
の企画を思いつきました。そ  
れで、「人生おもしろい方に  
三千点！」をモットーとする、  
お友だちの森住ゆき氏を引っ  
張り込んだ、というわけです。  
一年間どうぞお付き合いをよ  
ろしくお願いします。

京都信愛教会と明野キリスト教会  
の牧師、関西聖書神学校講師、熒  
き火塾代表。

お名前  
大頭眞一



もりよき  
森住ゆき



ある日大頭眞一先生から、ご自身  
の翻訳書や御著書(頼んでもい  
ないのに)大量に送られてきて、  
困惑しつつもおおずと読み進め  
るうちに、いつしか心が軽やかに  
羽ばたくような解放感とともに、  
豊かで愛にあふれた「神の物語」  
を味わうようになりました。です  
から大頭先生による「子どものた  
めの神のものがたり」は興味津々  
です。私には大きすぎるテーマで  
すが、放課後の部活動みたいに気  
負わず自由に制作させて下さい。  
活動の「部室」を提供して下さる  
からだね書店さん、ありがとう  
ございます。

グラフィック・デザイナーを経て和紙ちぎり絵作  
家に。著書に画文集「アメイジング・グレイ  
ス」「ぶどうの気持ち」「日めくり片岡の  
花でも」(いのちのことば社)、「思いを伝  
える和紙のちぎり絵春夏秋冬」(日貿出版社)  
がある。埼玉県熊谷市在住。

※ 2022 年末に配布したお知らせチラシです ※

# 読書感想文

「ヒューマニズム」

「人間であることの重荷」を背負って歩くこと

『悪について』  
『ヒューマニズム考』

エーリッヒ・フロム(ちくま学芸文庫)  
渡辺一夫(講談社学芸文庫)

「人間であることの重荷」を背負う (後編)



中編では、『エーリッヒ・フロムの『悪について』を参考に、  
集団的ナルシシズムが、自己の絶対性を主張する宗教集団にお  
いてよくみられる現象であることをみてきました。そうした集  
団は、無力感や恐怖から逃れるために、外界との接触を断ち、  
自己の内部で完結した世界を作り上げるといふ道をとります。  
そうすることで、思い通りにならない現実の世界に脅かされず  
に済むからです。つまりナルシシズムとは、過度な自信から生  
じるものではなく、むしろ自己不信や恐怖を原動力とするもの  
なのです。

ではどうすれば私たちはナルシシズムに陥ることなく、恐怖  
と不安から逃げずに現実にとどまることができるのでしょうか。  
フランス文学者渡辺一夫の『ヒューマニズム考』から、そ  
のことを考えてみたいと思います。

渡辺によれば、中世ヨーロッパの学問の中心である神学が、「針  
の先に天使が何人とまれるか」といった、何のためにもならない、  
議論のための議論に走っていたのに対し、「もっと人間らしい  
学問」を求める声の一部の学者から出てきたことからヒューマ  
ニズムは始まりました。そうした現実の問題と無関係な些末な  
議論に対して、「それはキリストとなんの関係があるのか」「そ  
れは人間であることと何の関係があるのか」と問い、本質に立  
ち戻るよう促す態度、それがヒューマニズムだということです。

こうしたヒューマニズムの態度から生じた大きな社会運動が  
宗教改革です。些末な神学議論や政治、金儲けにかまけて信仰  
の問題から離れてしまった旧教会に対して抗議の声を上げるこ  
とから宗教改革が始まったとすれば、宗教改革者たちもヒュー  
マニストの態度から出発したと言えるでしょう。  
しかし彼らが旧教会の支配に対して政治的・軍事的にことをか  
まえるにおよんで、あくまでヒューマニズムにとどまろうとし



た人たちは、再び「それは人間であることとなんの関係があるのか」と抗議せざるをえませんでした。

たとえばカルヴァンは、旧教会からの弾圧を受けてスイスに亡命し、ジュネーブに新教会を設立しますが、新教会の体制を堅固なものにするために、反対分子を次々と粛清していきました。死刑執行の不幸際で、死刑囚が長時間苦しんだ末に絶命したときも、カルヴァンは「裁判官の判決はもちろんのこと、ふたりとも死刑執行人の手から長い責め苦を受けたことは、神の特別なお審きがなくてはありえぬことだと、わたしは確信しています」と手紙に書きました。このカルヴァンの異常な「確信」に、彼の怯えとナルシシズムを感じ取れる気がします。

渡辺は、こうしたカルヴァンの所業を敢然と批判した神学者セバスタン・カステリヨンの以下のような言葉を紹介しています。

希くば神よ、恩寵によって一刻も早く我々全部が、正しい考え方に戻れるようになさせ給え。もしそうして下されば、神を讃え奉るであろうが、もしそうして賜わらなくとも、私は義務を果たそうとし、何処の誰方(どなた)かが、これから何かを学び取り、私が真実を述べたということを認めてくれることを念願する。そうなった場合、その人が、たとえひとりきりであろうとも、私は無駄骨を折らなかつたということになろう。(『ヒューマニズム』)

回避されたりするかもしれないと思っっているのです。(同198頁)

そしていつの時代も、この「平凡な人間らしい心がまえ」は必要とされていますし、その必要性は現在ますます高まっていますのではないのでしょうか。渡辺は本書の末尾で読者に次のように語りかけます。

現代は、あなたも「存じのように、機械文明が発達し、科学万能の夢が十九世紀以上に人々をとらえ、人間の集団生活の方針が険しく対立する二つの制度に分かれ、あらゆるところに「人間不在」「人間疎外」の現象が見られます。それゆえにこそ、「それは人間であることとなんの関係があるのか。」という問いが、とくに強く発し続けられなければならぬと、わたしは思うのです。人類そのものの大きな破綻を避けるためにも、また、それをすこしでも延期するために。(同202頁)

いま私たちに必要とされているのは、強い理想や思想をもつことではありません。そうではなく、自分が罪を犯し得る、矛盾と欠陥だらけの人間であることにこだわり続けることです。それは『ごく平凡な』ことですが、同時につらいことでもあります。なぜなら人間には、自分を神のように正しい存在だと思ひ込んだり、

ム考』140頁)

このカステリヨンの言葉から感じられるのは、カルヴァンのナルシシズム的「確信」とは正反対の、真実に基づく自信です。それは、自分の言葉が怯えを覆い隠すための欺瞞ではなく、「人間であることとなんの関係があるのか」という本質的な問いから出たものであることを知っているからこそ湧き出てくる自信です。こうした「人間であること」にこだわり続けたヒューマニストたちこそ、フロムの言う「自由な人間」と言えます。なぜなら、彼らは「人間であることの重荷」を降ろすことなく、自分の信念に従うことで自由を勝ち取ったからです。私たちはこれらのヒューマニストたちから学ばなければなりません。とはいえ、ヒューマニズムは何も難しい思想ではありませんから、誰にでも今すぐにはじめられる態度です。渡辺は言います。



ヒューマニズムは、別に体系をもった思想というようなきょうぎようしいものではなく、ごく平凡な人間らしい心がまえであるというのがわたしの考えです。そして、どのような人間の行動にも、また思想にも、ヒューマニズムがつき添っていたほうが好ましいし、人間の社会生活・個人生活の破綻は、かろうじて、それによって延期されたり、

反対に理性や自由を放棄して動物的なものに退化したりして、「人間であることの重荷」から逃れようとする欲求があるからです。しかし人間は自由な人間であることをやめることはできません。その現実を無視して突き進むと、とんでもない悪がその先には待っています。繰り返されてきた悲惨な戦争がその実例です。

フロムによると、悪とは、この「ごく平凡な人間らしい心がまえ」から逃れようとするにほかなりません。

人間は「神」になれないのと同じように、動物になることもできない。悪とはヒューマニズムの重荷から逃れようとする悲劇的な試みのなかで、自分を失うことである。(『悪について』208頁)

集団的なナルシシズムの大きな流れが巨大な暴力へと向かっていくのを押しとどめるために、また私たち自身がその暴力に加担しないために、今一度、「それはキリストとなんの関係があるのか」「それは人間であることと何の関係があるのか」という問いを、社会と自分自身に向かって発しなければなりません。『悪について』と『ヒューマニズム考』は共通して、そのことを訴えかけているように思います。

【書店員C】



お気に入りをお探しください。

# 新刊紹介



1

## 『声に出して読みたい新約聖書』〈文語訳〉

斎藤孝 著 草思社文庫 1210円 (税込)

## 『声に出して読みたい旧約聖書』〈文語訳〉

斎藤孝 著 草思社文庫 1210円 (税込)

私の教会では、かなり長い間、文語訳聖書を使っています。そのおかげか、中学で古文や漢文を、どや顔ですらすら音読していたのを思い出します。教会の大人の人はよく「聖書はやっぱり文語でないとなー」と言っていました。そして現代語の聖書に切り替わっても、お祈りのなかに出てくる聖句は頑固なまでに文語でした。文語体を朗読すると、その格調高さや美しさがきわだつらしく、文語の聖句が暗唱しやすかったのはそのせいかもしれません。著者の斎藤孝氏はクリスチャンではありません。でも「聖書というかたちでイエスの言葉が残っているのは幸運です」と言います。「今も

なお生命力を失わない言葉であることは特筆すべきです」さらに「聖書を文語体で訳した人々の言語能力は、想像もできないくらい優れたものです。新約聖書の文語体も旧約聖書の文語体も、文語体ならではの格調高い言葉によって宗教の崇高な精神が読む側に伝わってきます」とも言います。私が一番うれしかったのは、詩篇104篇17節の訳を発見したときのこと。共同訳では「そこには鳥が巣をかけ、このとりは系杉を住みかとする」新改訳2017では「そこに鳥は巣をかけ、このとりは、もみの木を宿とします」。これが文語訳では「鳥はそのなかに巣をつくり鶴は松をその棲(すまひ)とせ



り」となります。なんと日本人の心と五感に響く訳でしょうか。思い切って、鶴と松を登場させてしまう大胆さたるや…。日本文化や日本語の美しさ、奥深さを存分に用いて、神の存在の素晴らしさを味わわせてくれるのが、文語訳聖書だと、あらためて思います。(評店長)

## 《お知らせ・1》

◎昨年、戦禍にあるウクライナの方々を支援するために書店に設置した募金箱に入っていた寄金と、ウクライナパズジ等のグッズ売り上げは、合計81957円でした。このうち3万円を「ウクライナ難民を支援する会」、5万円を「国際NGOオペレーション・ブレッシング・ジャパン(OBJ)」を通して、ウクライナ支援のために送金いたしました。一日も早く、戦争が終わることを願いつつ、今年も引き続き寄金を募集いたしますので、書店においでの際は、よろしくお願いたします。以下、OBJ担当者様より皆様へ感謝のメールが届きましたので、掲載いたします。

「私どもの本部(オペレーション・ブレッシング)は、以前からウクライナで孤児院の運営を支援しておりました。そういった地元つながりがあったため、今回のロシア侵攻についても迅速に支援を進めることができました。実際、日本の多くの企業はどこに問い合わせればウクライナに直接的な支援ができるかわからなかったみたいで、年齢や何かしらの障がいのある人は、そこにとどまるほか選択がありません。電気の供給がなく、いつ死が訪れてもおかしくない覚悟の中で生きる人たちに私たちの支援が微かに残された光』なることを願ってやみません。皆様の温かなご支援を心から感謝申し上げます」

## 《お知らせ・2》

◎もうひとつ、書店に寄せられた古本の中から、OBJのクリスマス・ギビング・キャンペーン(社会的・経済的理由などから困窮し地域から孤立している人々に対し、つながりづくりを兼ねた声掛けとギフトをお届けする社会貢献プロジェクト)に、絵本とクリスマスストラクトを寄贈いたしました。新品同様のきれいな状態の絵本が、子どもたちのもとに届けられました。絵本をご寄贈くださった皆様、ありがとうございます



2

### 『世界の宗教地図 わかる！読み方』

ライフサイエンス 著  
二葉書房  
8000円(税込)

世の中、宗教を知らない、「まずいこと」が多すぎる!? たえば……  
●ウクライナ侵攻はロシアにとって絶対ゆずれない「聖なる戦い」? ●仏教VSイスラム教! アジアで「過激化する仏教徒」が急増中●ヒジャブ、ブルカ、キッパ……服装にまつわる複雑な宗教問題 ●儒教の国・韓国にキリスト教徒が多い「歴史的事情」 ●イスラム圏から世界に広がる「新ビジネス」  
政治、経済、歴史、新聞・ニュースの話題から、宗教の成り立ち・常識・タブーまで――宗教を通して見たら、全部理解できる! 説明がつく! この1冊で、あなたの「世界を見る目」が変わります!



3

### 『366日デイブーション 弱さの間を照らす』

中村横 著  
いのちのこぼれ社  
17000円(税込)

百万人の福音の人氣連載の単行本化。弱さの間をもつ人間を愛してやまない神の息吹を感じるショートメッセージ。「現代思想の罫」「心の暗闇と弱さ」「三位一体なる超越した神様」「信仰、主と共に歩む人生」など。人間と神を見る目の鋭さ、やさしさ、深さを感じる。一冊です。



4

### 『日々を生きる力 あなたを励ます聖書30葉のこぼれ』

片柳弘孝 著  
教文館  
6000円(税込)

「祈りとは、何があっても決してあきらめないということ。最後まで希望を持ち続けるということ。―本文より」。1日1ページで366ページ。1ページは、短い聖句ひとつと、読者の人生へのエールのことがひとこと。心が折れそうになつたとき、楽な方に流されそうになつたとき、心をきゅっと神様の愛の方へ向けてくれます。



5

### 『だれを私は恐れよう 北朝鮮の刑務所で過ごした949日』

ケニス・リム 著  
いのちのこぼれ社  
16000円(税込)

18年間にわたって150回も北朝鮮を訪問し、人道支援を続けてきた韓国系カナダ人牧師ヒヨンス・リム。とんでもない罪名で死刑を言い渡され、獄中で過ごした949日間、彼が見たものとは? 神が介入されたとしたか思えない突然の釈放までを、感謝とともに率直に綴っています。北朝鮮での福音宣教について知りたい方はぜひお読みください。



6

### 『聖書が教える世界とわたしたち』

吉村和雄 著  
キリスト新聞社 17900円(税込)

キリスト品川教会で長年用いられてきた、洗礼準備テキストがついに単行本化! 今の時代になぜ神を信じるかという問いからはじまり、聖書が現代に生きるわたしたちに何を語るうとしているか、そして聖書全体をなぞりながら、神と人のストーリーと、そのメッセージを丁寧かつわかりやすく説く、最良の手引き。聖書全体を一貫して流れているものを明らかにしながら、聖書や信仰に対して多くの人が抱いている疑問にも丁寧に答えます。同教会では、受洗準備の会において長く用いられ、多くの人を洗礼に導いてきたテキスト。



7

### 『日常の神学 今さら聞けないのQ&A、N&A』

岡村直樹 著  
いのちのこぼれ社  
16000円(税込)

「身の回りで起こる出来事に疑問を感じたとき、また進むべき人生の道の選択で悩んだときに、自ら進んで聖書を聞くこと。その疑問や選択について聖書は何を語っているのか、自分はどうしたらよいのかを真剣に考えること。そして導き出された答えに従って進むこと。これが『神学をする』ということです。」と著者は言います。若い世代や洗礼を受けたばかりの人から、信仰歴10年という人まで読める内容が詰まった一冊。



8

### 『イエスと共に過ごす安息日』

豊田信行 著  
いのちのこぼれ社  
8000円(税込)

「キリスト者は労苦することだけでなく、休息することによって神を崇めることができるのです。いや、休息するキリスト者こそ、真の礼拝者なのではないでしょうか。―本文より」休日でも休息していない自分を振り返ると、耳の痛い言葉です。キリスト者が休息することの重要性を聖書から確かめ、安息日の今日的意味を探りながら、ゆだねることで神との協働を深める意義を考えます。神への礼拝を中心とした生き方へと導き入れられるために。





## 古書献本のお願い

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担いただけるとありがたいです。(受付できないものもありますので事前にお知らせください)

百科事典・辞書・開封済みの  
CD・DVD・月刊誌・週刊誌等は  
受け付けておりません

### 【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本(多少、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし(料理、健康、経済等)にかかわる本
- 5 小説(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

### 【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館

宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX075-574-0025

Mail：clc@karashidane.or.jp

### 【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

### 【献本感謝】

興梠みほ様、西尾様、加藤民子様、藤井久美子様、盛本幸子様、匿名様(順不同)

**12月の古書の収益は53,158円でした。【古本の売上を含むCLCからしだね書店の収益は、すべて、書店で働く障がい者の工賃になります】献本くださった方のお名前を書店だよりにご紹介させていただきたいと思っております。匿名ご希望の方は、お知らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。**

### 編集後記

◆あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく願いいたします。◆「こどものための神のものがたり」が始まりました。いかがでしたでしょうか。1年間の連載です。乞うご期待。◆次号からの新しい連載を企画中です。こちらもご期待ください。◆皆様の新しい一年が、希望と祝福に満ちたものでありますよう、お祈りいたします。【店長】

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね  
就労継続支援A・B型事業所からしだねワークス  
からしだね書店&カフェ・トライアングル  
〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館  
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025  
書店メール clc@karashidane.or.jp

CLCからしだね書店だよりの  
バックナンバーはこちらから

